

(特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 会報

Vol.29 2024年4月20日発行



この美しい自然を守ることが、人類を救う!!

桜の開花を戸惑わせた春先の気温乱高下は、まさに、「気候変動」、並みの「温暖化対策」では、すでに、手遅れかも知れません。このまま、手をこまねいては「より、悲惨な事態を招く。」と、識者の間では共通認識となっています。われわれも、更に気を引き締め、活動を続けなければなりません。

諸般、厳しい折ですが、一層のご活躍とご健勝を、祈念申し上げ、会報 Vol.29 号をお届けします。

目次・概要

ページ

- **巻頭言** (特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 梶田 弘一 2
積極的に交わる新年度でありたい。
- **岐阜県環境関連事業のご案内** 3
いくつかの岐阜県環境関連事業を紹介しています。環境カウンセラー活動の中で活用してください。
- **「(特非) 環境カウンセラー全国連合会」再加入問題について (中間報告)** 3
前年度より課題の「(特非) 環境カウンセラー全国連合会への再加入問題」について、現状報告します。
- **特集～持続可能な航空燃料 (SAF) について、考えて見ませんか?～** 4
最近、東京都が「廃食油回収大作戦」を宣言しました。廃食油の再生利用として、SAF が脚光を浴びています。廃食油の回収について、今一度、考えて見ませんか?
- **令和 5 年度岐阜県地域循環共生圏促進事業について (実施報告)** 6
令和 3 年度より、「清流の国ぎふ森林・環境基金事業」の補助を受け、取り組んで来た「地域循環共生圏促進事業」について、報告します。
- **新しい仲間 (4 名) です!! ようこそ!! そして、歓迎します!!** 7
令和 6 年度、久々に新しい仲間が増えました。
- **会員訪問** 8
先号より、会員各位の活動状況を紹介するコーナーを設けました。第二弾は、小倉竹治郎さんです。
- **編集後記** 10

● 巻頭言

(特非) 岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 梶田 弘一

今春の、さくら開花は予報初期には「例年より早め」でしたが、その後の気温乱高下により、一転、「昨年より、△△日遅い」といった状況になり、長めの「サクラシーズン」でした。そして、気が付けば周辺の山々は、「^{もえぎいろ}萌黄色」に模様替えしています。この自然界の力強さを、見習い、私たちも強く、たくましく進めたらと思います。

令和5年度は、「環境カウンセラー全国連合会再加入」問題への対応で、右往左往の日々でした。この再加入問題を検討する過程で、会員各位からいただいた「多くのご意見」を拝見した時、「如何に、会って話すことが大切か」を、感じざるを得ませんでした。それは、例えば、「再加入」に関するアンケートでも「再加入のメリットが読めない」など、執行部として「十分、説明しているはず」のことが、伝わっておらず、説明不足を批判するような意見となっていたり、明らかに「コミュニケーション不足」の結果ではないかと思われることが多くありました。

一方、「サイレントマジョリティ」というか、「無言」も多く、それぞれの想いをどのように「^{しんしゃく}斟酌」するかも悩みが付きませんでした。「サイレントマジョリティ」とは、善意に解釈すれば、「静かな大衆」あるいは、「物言わぬ多数派」という意味のようですが、積極的な発言、参加が欠けることによる「当事者意識欠如」につながる懸念も払しょくできません。

特に、当協議会のように課題を多く抱えている組織においては、今一度、「自分自身を見直した」上、積極的な発言、行動が求められます。小さな執行部を標榜して再出発した意味はそこにあり、一人ひとりの力は小さくても、チームプレーで支える「全員野球」が、目指すところです。

そして、この1年、「コミュニケーション不足」を指摘する声も多く聞かれました。「コミュニケーション」は、先の、「サイレントマジョリティ」と対極にあると考えられ、「一方的に誰かの責任」ではなく、「お互いの立ち居振る舞い」によるものではないでしょうか。そのあたりも、「情報不足」と併せて、今後、議論の余地がありそうですが、みなさまはどのようにお考えでしょうか。

いずれにしても、これらの議論を行うには人と人が会わねばなりません。欠席したのでは、会えません。その辺りを熟慮し、積極的に交わる新年度でありたいと祈念いたしております。

新年度も、よろしく願いいたします。



各務原・境川

● 岐阜県環境関連事業のご案内

いくつか岐阜県の環境関連事業について、簡単な説明及びサイトのURLをお知らせします。当課としても活用の幅を広げていきたいと考えております。皆様の活動の中で活用や周知をお願いします。

【環境教育推進事業】 <環境生活政策課 担当>

学校や企業等からの派遣依頼を受けて、県から環境教育推進員を派遣する事業です。本事業で派遣された環境教育推進員には、県から報償費及び旅費をお支払いしています。

また、環境教育推進員の募集についても同ページに掲載しております。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/14186.html>

【ぎふエコアクション】 <脱炭素社会推進課 担当>

県民を対象に、毎日の生活の中で取り組める20項目の省エネ行動を自らチェックすることで、CO2排出削減量を見える化するWebサイト「ぎふエコアクション」を開設しています。また、本サイトの下部にはぎふ環境学習ポータルサイト、脱炭素総合ポータルサイト、地球温暖化対策動画「ギフノミライ」、ぎふ環境エコ検定など、県が作成している各種サイトのバナーがあります。

<https://gifu-ecoaction.pref.gifu.lg.jp/>

【脱炭素総合ポータルサイト】 <脱炭素社会推進課 担当>

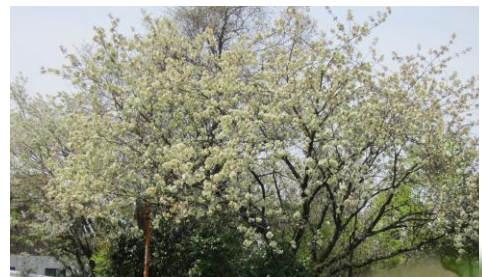
県からの依頼により、地温センターが運営するポータルサイトです。新着情報の欄は、県や国が実施する事業やセミナー等について、情報を日々更新しているため、こちらを定期的に見ていただくと最新情報が得られると思います。

<https://gifu-datsutanso.jp/>

～～～情報提供：脱炭素社会推進課 浅野（令和5年当時）～～～

● 「（特非）環境カウンセラー全国連合会」再加入問題について（中間報告）

2023年3月、当協議会の自己都合で、脱会した「（特非）環境カウンセラー全国連合会」への再加入問題が、顕在化して以降、1年が経過しました。この間、理事・監事意見交換会を幾度となく開催し対応策を協議しつつ、連合会代表理事との意見交換で、「連合会は岐阜県内でPR活動等を中止する。」旨、合意されました。しかし、その合意が徹底せず、改めて、先方、当方とも複数の陣容で、合意事項の徹底を図りました。



ウコンザクラ（鬱金桜）

この間、当協議会としては、2023年度通常総会に、この問題の存在を示し、この後、1年をかけて議論の上、2024年度通常総会で結論を得ることとしました。

その後、具体的対応策をまとめる上で、顕在化当初より、関わりを持つ人たちの協力が不可欠として、「拡大理事会」を、8月8日、オンラインで開催することとしましたが、期待通りの人数が集まらず、少人数での協議で、「全会員からアンケートを採る。」とし、12月に再加入の是非を問うアンケートを実施しました。しかし、これも、回答者は会員数の約4割、8名に留まり、回答に伴う意見では「加入に伴うメリット等がよくわからない。」等、全容の理解が得られていない様子が窺われ、対面の意見交換が必要と判断し、3月30日にハートフルGで会を開催しました。

結果、役員を除く参加者1名のみで、参加者を一人でも増やすべく、急遽、オンライン開催を決定し、2週間後（4月13日）に開催しましたが、ここでも役員以外2名にとどまり、この問題に対する課題が残りました。

しかし、この問題を避けて通るわけには行かず、「全国連合会が、その活動基盤を強くする。（したい。）」ことと、「岐阜県下に無用の混乱を招かない。」ため、2024年度通常総会において、「（特非）環境カウンセラー全国連合会への再加入の是非」を決するべく、理事間において総会提案案を作成することとしました。

総会において、会員諸氏の賢明なご判断をお願いしたいと思います。

● 特集～持続可能な航空燃料（SAF）について、考えて見ませんか？

「飛び恥」という言葉を聞いたことありませんか？環境活動家グレタ・トゥーンベリさんが、米国での国連サミットに参加する際、飛行機を避け、ヨットで大西洋を横断したことが注目され、「気候変動抑制のため、飛行機に乗ることは恥」とする運動で、スウェーデン語（flygskam）から英語に翻訳され、Flight shame（フライトシェイム）飛び恥という日本語になっています。

ご承知の如く、飛行機は高速で遠距離を移動できる利便性があり、多くの人たちが利用していますが、そのエネルギー使用量、温室効果ガス排出量も公共交通機関としては、かなり、高いと云え、その利用に冒頭のような抵抗感も示されています。

飛行機は自動車等と比べ、電動化が難しく、不可能に近いという課題があります。それは、離陸時重量の20～30%を占める燃料に代替するリチウムイオン電池の重量が、その20倍にもなるという試算によります。



シデコシ（多治見・虎溪山）

そこで、従来より、その利用に期待されている「廃食油」を原料とするバイオ燃料を、バイオ航空燃料（持続可能な航空燃料（SAF））とすることに、近年、期待が集まっています。世界各国では開発・実用化が進められており、技術的には実用段階にあって、「廃食油」の争奪戦も始まっているとの情報もあります。ここでも、日本は出遅れ感がありますが、エネルギーの自給という観点からも考え方を考える必要があるのではないのでしょうか。考え方を変えるとは、かつて、バイオディーゼルに関心が集まった時期もありましたが、市バスの一部等にバイオディーゼル車運行、工場内のフォークリフト燃料など、本格的な利用の域に達していないところから変わるべきということです。



菜の花（愛知・田原・伊良湖岬）

そして、これらの状況にいち早く反応したのが東京都です。この3月25日、ゼロエミッション東京実現を目指す廃食用油回収キャンペーン「東京 油で空飛ぶ 大作戦」を公表しました。すでに、他の自治体でも「①各戸に回収用ポリタンク常備、②使用済み植物油回収、③市民団体も回収拠点設置」に取り組んでいる事例もあります。

そこで、みなさんの出番です。みなさんお住まいの市町自治体に、「廃食油の100%回収」を働きかけませんか？現在、表向き、「廃食油」を資源回収の対象にしている自治体も多くありますが、各家庭で毎日少量発生する廃食油が確実に回収まで行き届いているかが問題だと思います。

市民一人ひとりの行動変容を促すためにも、東京都と同じ目線で、「キャンペーン」を張るのも一考かと思いますが如何でしょうか？

エネルギー自給の糸口になるかも・・・？

SAF（サフ）& 地域循環共生圏（ローカルSDGs）

次世代の航空燃料と呼ばれる「SAF」(サフ)

二酸化炭素の排出量を大幅に削減できるとして、今注目を集めています。実は食用油からも作れるという、この「SAF」を国産化しようという動きが始まっています。

「SAF」は、Sustainable（持続可能な）、Aviation（航空）、Fuel（燃料）この頭文字からとられています。植物や廃油などから作ったバイオ燃料で、従来の原油からつくる燃料と比べて二酸化炭素の排出量を80%程度減らせるとされています。

航空機はほかの交通機関に比べて二酸化炭素の排出が多いとされ、航空機に乗るのは恥ずかしいという意味の「飛び恥」ということばも生まれているほどで、SAFは、そんな航空分野の脱炭素に向けた切り札として注目されています。

今までの燃料は原油から作っているため、原料を輸入するしかなかったが、バイオ燃料であれば国産も夢でなく、つい先日、3月2日、この燃料を国産化するための新たな団体が立ち上がりました。団体の名前は「ACT FOR SKY」といい、全日空や日本航空、プラント建設の日揮ホールディングスのほか、原料となる廃油を提供する日清食品ホールディングスなど16社が参加しています。

国は、2030年までに国内の航空会社が使う航空燃料の10%をSAFに置き換える目標を掲げているものの、脱炭素を目指すのは世界各国、どこの航空会社も同じことであり、各国の航空会社の間でSAFが争奪戦となっているのです。

すべて輸入に頼っている日本としては、目標の達成に向けて、SAFを安定的に調達するには、国産化が不可欠です。さらに、ヨーロッパなどでは、航空会社に燃料の一定割合をSAFにするよう義務づける動きも出ています。参加した企業は「国産化が実現できなければ、日本の航空機を海外で飛ばせなくなるのではないか」という強い危機感も持っています。新しい団体では、業界の垣根を越えて協力し、国産化に向けた課題をクリアしようとしています。

最も大きな課題が「安定的な原料の調達」で、SAFは古着や家庭ゴミ、それに使用済みの食用油といったさまざまな原料からつくることができ、団体に参加している京都市の燃料メーカー「レボインターナショナル」では、全国の飲食店などおよそ2万5000か所から引き取った廃油などを原料にSAFを作ることを目指しています。SAFの研究を行っている運輸総合研究所の試算では、国内にある使用済み食用油や家庭ごみなどをすべて生産に利用できれば、国内での航空機燃料のほぼ全量をSAFに置き換えられるとしています。

ところが、すでに本格的に生産を始めている海外の企業などが、使用済み食用油を高値で買い取るケースが増えていて、ここでも「争奪戦」が始まりそうな気配です。

取り合いが行われれば、原料となる廃油の値段も上がりかねず、「製造コスト」も課題となってきます。SAFは今のままでは従来の燃料の2倍から10倍のコストがかかるかとされていて、メーカーが量産に踏み切るには、技術革新などによる大幅なコスト削減が不可欠となっています。

SAFの国産化が進まなければ、物流が滞り、一人ひとりの経済生活にも影響が出かねない。今回の団体のような取り組みを通じてSAFの重要性を広く知ってもらい、多くの原料をSAFに振り向けられる社会をオールジャパンで実現していく必要があります。

国産SAFの実現は、航空業界の脱炭素だけでなく、日本のエネルギー業界の変革につながる可能性もあるだけに、今後も注目していく必要があります。

※このページ、「朝日新聞デジタル」より、引用

● 令和 5 年度岐阜県地域循環共生圏促進事業について（実績報告）

（実施事業名 里・山・川の保全・活用を通じた地域おこし（地域循環共生圏促進）準備事業）

○ 事業実績（事業量、参加人数など）

地域循環共生圏入門シンポジウム

- ◆ 計画で予定した基調勉強会、事例研究会（机上学習）を併せて実施。35 名参加。
- ◆ 地域でまちづくりに取り組んでいる推進者を交えた「鼎談」による「地域循環共生圏の考え方」説明は、一定の成果が見られた。

事例研究視察

- ◆ 計画した 2 回、「温故知新そして未来を見つめる旅」、「脱炭素先行地域視察」として実施。それぞれ 15 名、10 名、計 25 名が参加。

拡大井戸端会議

- ◆ 「プラットフォーム」というネーミングに参加者等が「馴染みにくい」との意見多く、当面、「井戸端会議」名目で進めることとした。
- ◆ 計画した「エコプラットフォーム多治見（仮称）」設立、「地域プラットフォーム」設立検討会を拡大井戸端会議として 2 回（①太陽光発電の今後を考える。②地域循環共生圏づくりを考える。）開催。各 7 名、計 14 名参加。

○ 事業効果

① 直接効果、波及効果

- ◆ 今年度、目標とした「エコプラットフォーム多治見（仮称）」設立、「地域プラットフォーム」設立検討会までは、辿りつけなかった。
- ◆ 行事を実施することで、地域の関心を呼び起こす計画であったが、今ひとつ、気運の醸成には至っていない。
- ◆ 今年度、政・官界、経済界からも少数であるが参加を得、若干、期待も持てたが、直接、目に見える成果にはつながっていない。
- ◆ 日常活動の強化による「根回し」が重要と感じた。もう、一押し必要と考える。

② 参加者等のコメント

- ◆ はじめて、「地域循環共生圏」を知ったが、多治見でも、かなり、近い取り組みが進んでいると思った。（シンポジウム参加者）
- ◆ 「地域循環共生圏」は、市民が主、行政がサポートする形かと感じた。（同上）
- ◆ 「温故知新そして未来を見つめる旅」は昔を知り、現代に活かせることを知るよい機会でした。（事例研究視察参加者）
- ◆ 良いツアーだったので、もう少し参加者増を望む。（同上）
- ◆ 小水力発電設備が、思ったより規模が大きいことに驚いた。（思ったよりコンパクトだった。）（同上）
- ◆ 拡大井戸端会議（太陽光発電の未来を考える）に、産業界の参加を得たことは良かった。（参加者）

基本方針で示した「できることからやる」ことの実践として、令和 3 年度より、「清流の国ぎふ森林・環境基金事業」の補助を受け、「地域循環共生圏促進事業」に取り組んできましたが、令和 5 年度事業で当初の 3 年計画が一区切りとなりました。

この取り組みは、先に示しましたように、「一石三鳥」を狙った、大胆な試行」であり、① 20 世紀型経済構造からの脱却、② 環境への取り組みと市民生活を同じテーブルに乗せること、③ 当協議会が団体として事業展開できる「力」を醸成することを、実践体験することでしたが、課題はあるものの、当協議会が事業展開できる力は十分持ち得ていることは実証出来ました。一区切りと云っても、具体的な成果には結びついていない事実をどのように改善していくか、今まで、ご協力いただいたみなさまと協議し、令和 6 年度以降の計画に繋げていきます。

● 新しい仲間（4名）です!! ようこそ!! そして、歓迎します!!

新生「岐阜環境カウンセラー協議会」発足以来、コロナ禍もあって、減少し続けた会員数ですが、令和6年度スタートと同時に新しい4人の仲間が参加していただくことになりました。

懸案の山積する当協議会ですが、共に助け合い、切磋琢磨して、社会から期待され、頼られる団体となるよう頑張らしましょう。



木村 和人 さん 昭和 37 年生まれ
・関市在住
・ECU 環境教育インストラクター
・岐阜県地球温暖化防止活動推進員
・関市内環境保全ボランティア団体所属



國枝 孝之 さん 昭和 39 年生まれ
・揖斐郡大野町在住
・岐阜トヨペット株式会社
・岐阜県地球温暖化防止活動推進員
・次世代エネルギー車活用出前授業
・企業内 CSR 担当者



戸崎 行雄 さん 昭和 28 年生まれ
・中津川市在住
・元・三菱電機株式会社中津川製作所
・岐阜県地球温暖化防止活動推進員
・活動分野 エネルギー
環境教育



富田 宏 さん 昭和 59 年生まれ
・多治見市在住
・中京学院大学短期大学部保育科特任講師
・専門分野 保育学（短大保育科教員ほか）
環境教育学（日本環境教育学会）
保全生態学（日本湿地学会）
・元・九州大学工学研究院テクニカルスタッフ

掲載順：上から。「あいうえお」順

● 会員訪問

先号より、会員各位の活動状況を紹介するコーナーを設けました。その第二弾は、元理事にしてエコアクション 21 地域事務局ぎふの事務局責任者を務めて来られました小倉竹治郎さんの近況を紹介します。

(小倉さんから、提供いただいた「活動メモ」並びにインタビュー（4月8日大垣市内）内容をまとめました。)



小倉竹治郎 さん 76歳 市民部門、事業者部門 2009年登録

岐阜県大垣市在住

昭和 45 年 4 月 大垣市入庁 民生商工部衛生課以来、
10 年ほど都市施設課（緑化係）を挟み、
定年まで環境畑で過ごす

平成 22 年 4 月 環境カウンセラー登録

エコアクション 21 地域事務局ぎふ事務局長を、
務める傍ら、エコアクション 21 審査員

現在、岐阜行政相談委員協議会会長、岐阜県市町村職員年金者
連盟副会長のほか、薬剤師資格を活かし、学校薬剤師^{*1}などを努める

久しぶりです。最近はどうですか？エコアクション事務局から解放されてどんな暮らしぶりでしょうか？

エコアクション 21 地域事務局あいちを辞めて、丸 1 年を経ちました。辞めた時は、これで自由な時間が増えると思っていたのですが、以前から関係のあった団体内から、県レベルの会長、副会長職^{*2}を受けることになり、逆に多忙な日々となっています。

行政経験を活かされた役割ですね。その他、自治会活動など、何か役割を担っていますか？ほかに、手掛けていることありますか？

自治会の会長就任依頼は何回もありますが、お断りをしています。しかし、交通安全の P R 活動などは、10 年以上行っています。通学の子供たちとあいさつを交わしていると元気がもらえます。

子どもたちとの触れ合いは、いいですね。行政経験も環境に関わる部分も長かったように聞き及んでいます。そこらを活かした活動など行われていますか？

行政経験を生かした活動といえば、行政相談委員の活動です。主な相談は、国や市の行政に関するものですが、解決でき喜ばれた時はうれしくなります。また、環境に関することは、現職時代の縁もあり、大垣環境市民会議事業者部会アドバイザー、大垣市かがやき市民講師、ハリコネットワーク会員などで関わっています。

環境カウンセラーを意識した活動は？

特に、「自分が中心になって・・・」という気持ちはありませんが、最近、環境カウンセラーの肩書を意識したことがありました。それは、輪之内町環境審議会で「輪之内町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を審議し、その計画書を町長に渡す儀式で、新聞記者から肩書を聞かれ、これは、環境カウンセラーの PR になると思い、環境カウンセラーを肩書にしてくださいと申し出ました。記者は、それは何？という感じでしたが、説明して理解してもらいました。

輪之内町は、以前より、先進的な取り組みが行われていると聞き及んでおります。

輪之内町は小さな町ですが、ごみのリサイクルやレジ袋有料化を、県下で最初に行ってきた環境先進地であるとともに、小学生を中心とした環境学習は、10 数年継続されています。これが、輪之内町の環境意識の向上に役立っているものと思います。そして、現職の頃よりのご縁で、いづくか、お手伝いができていることを感謝しています。

話は変わりますが、環境カウンセラーになったキッカケは何ですか？

現職時代、事業者の方との話の中で、「環境に関することを身近に相談できるところがあるとよい。」ということを知り、大垣市内で、そのような組織を作ろうと模索していましたが、自身の定年で、その思いは果たせませんでした。

そんな時、エコアクション 21 の事務局に誘われ、仕事をしているうちに、自分も EA21 審査員になろうと思い、その要件でもあった環境カウンセラーの登録を行いました。



岐阜新聞 2024年2月11日記事より、引用

環境カウンセラーの役割、自分の考える環境カウンセラーとは、どんな立場と考えますか？

環境カウンセラーとは、何？ 先にも云いましたが、私自身は、自分で何か事業を立ち上げようとは思いませんでした。環境に関する知識を活かし、環境問題をコーディネートし、情報交換の場を作り、多くの人に環境問題を理解してもらおうチャンスを作ることだと思います。輪之内町での活動でも、自分が中心ではなく、縁の下の力持ちだという考え方でやってきました。

輪之内町での活動が、小倉さん自身の原点のように感じましたが、この成功事例を他の地域へ広げる考えはありますか？また、活動をつないでくれる後継者は見当たりますか？

私も年を重ねてきましたので、いろいろの会において後継者の育成は心がけており、めばしい方にはアプローチしています。しかし、環境カウンセラー資格を取っていただくなど、簡単に了解いただけなのが現状です。活動の場として環境市民会議という足場があるので、あと5年若かったらと思っています。

最後に、最近、当協議会に関連する「環境カウンセラー全国連合会への再加入問題」がありますが、その議論の中で「環境カウンセラーの認知度が低い」ことが問題視されています。行政の立場も熟知されている立場から、「社会に認知してもらう」ため、何が必要と思われますか？

当協議会に入っている方々の多くは、環境カウンセラーの肩書がなくても十分社会に認知されています。この方たちの活動を利用していただき、環境にかかわる活動であれば、PR などの紹介時に環境カウンセラーを肩書の一つに加え、当協議会の一員であることをお話しいただくことです。NPO の協議会としても独自で活動している方の情報を広く提供し、必要に応じて紹介できる体制を作ればよいと思います。（情報交換の場）そして、協議会に入っていない環境カウンセラーの加入を促進する必要があります。

最後のお話しは、ちょっと、分かりにくかったですかね？しかし、世間的に「環境カウンセラーの活動」より、他の活動に目が行くのも事実で、少しずつ、改善していくしかありませんね。

本日は、ご多用中、長時間お付き合いいただき、ありがとうございました。

※1 学校薬剤師：学校保健安全法の定めで、すべての学校に必ず任命されなければならない役職で、薬剤師資格を要する。

※2 岐阜行政相談委員協議会会長。岐阜県市町村職員年金者連盟副会長



リキュウバイ

● 編集後記

年度末から年度初め、何かと多忙な気ぜわしい日々が続き、当会報の編集も、やっと、発行日に間に合ったかという状況でした。と云った人間社会のそれも小生如き料簡の狭い人間に比べ、ダイナミックな自然界の動きには、ただただ、頭が下がるのみです。サクラから^{もえぎいろ}萌黄色の新緑へ、心新たに新年度を迎えたいものです。

今号も、新企画の「会員訪問」では小倉竹治郎さんに、ご協力いただき、継続させてもらいました。ありがとうございました。次号以降も、会員各位の投稿、インタビューなどをお願い致しますが、その折には、積極的にご協力いただきますよう、お願い致します。

担当：梶田 弘一

発行：特定非営利活動法人 岐阜環境カウンセラー協議会

〒507-0001 岐阜県多治見市小名田町小滝 5 番地の 301 (梶田・宅)

TEL/FAX 0572-88-8037

E-mail : gifu-ec@ob.aitai.ne.jp

URL : <http://www.gifu-ec.jp>

発行責任者：梶田 弘一